

スポーツの教育的効果と普及 —特にサッカーをしている園児～高校生—

山崎 優希 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 松田 保

キーワード: 3つの間 JFA2005年宣言 キッズサッカー

1. 緒言

現代の子どもを取り巻く環境は昔と大きく変わっている事をふまえ、約60年ぶりに教育基本法が改正された。これからの教育のあるべき姿、目指すべき理念が明らかとなり、教育の課題が示されている。毎日スポーツ指導をしている筆者の経験と、現代の子どもに足りないと言われている「3つの間」がスポーツにはある事から、現代の教育の課題をスポーツが解決できると考えている。そしてスポーツに教育的効果があるならば、広く普及させる事大切である。JFA2005年宣言にあるように、日本サッカー協会を中心としたキッズサッカー普及活動が行われている。本研究ではスポーツの教育的効果と普及をサッカーという一側面から調査し、進めていく。

2. 研究方法

本研究ではアンケート調査と文献調査を行い、の分析を進める。アンケートの調査対象は滋賀県と京都府北部のサッカーをしている園児～高校生、221名とする。

3. 結果と考察

(1) スポーツの教育的効果

教育とは人格の完成を目指し、現代の教育の課題に、人間性、社会性、豊かな心、創造性、生きる力等の育成が挙げられる。(学習指導要領等)

アンケート調査の結果、サッカーをする中で、仲間との活発なコミュニケーションにより信頼が生まれる。サッカーで成長した事に、「仲間に関して」や「人間的に成長」といった内容の回答が多く見られた。また、サッカーをしていて「挨拶」、「整理整頓」、「話を聞く」、「自分で考えて行動する」という指導を受けたと答えた子どもが半数以上いる。計4項目のアンケート結果から、教育の課題とサッカーによって身に付くと考えられる事

が一致する。従って教育的効果があると結論付ける。

(2) スポーツの普及

全6項目のアンケートを行い分析した結果、キッズ年代にスポーツ体験の機会を与え、楽しいと感じさせる事が大切である。次に、年代やレベルに応じた場がある事が大切である。特に滋賀県はサッカーの普及活動が盛んであり、滋賀県サッカー協会を中心とした取り組みはキッズサッカーの普及に大きく貢献している。

4. まとめ

本研究ではサッカーという一側面での調査から、スポーツに現代の教育の課題を解決できる教育的効果があると考えられる。そして、アンケート調査と滋賀県のキッズサッカー普及の取り組みから、スポーツを普及させるには、キッズ年代に運動が楽しいと感じる体験と、スポーツを続けるための環境を整える事が大切であると結論付ける。アンケート結果のほぼ全てがChi-square testで有意である事が分かり、かなり信頼のあるデータ結果が得られた。本研究を今後の活動に繋げていく事で役立てていく。

5. 参考文献

高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
文部科学省 (2009 (平成21)年)
ジュニアサッカー キッズのトレーニング集
豊田一成 (2006年発行)
中学校学習指導要領 文部科学 (2008)
平成21 (2009)年度事業報告
社団法人 滋賀県サッカー協会 (2009)
JFAキッズハンドブック
財団法人 日本サッカー協会 (2007)
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014.htm 文部科学省